OKAYAMA SANYO HIGH SCHOOL COLLECTION

おかやま山陽モノ話
2013

おかやま山陽モノ話
2013
OKAYAMA SANYO HIGH SCHOOL COLLECTION

序

校内のいろんな所に
点在する「モノ」。

普段は気に留めないで
見過ごしている「モノ」。

ほんの小さなモノ話だが、
学校の歴史の一部分だ。
その正体を知れば、
その時代にタイムスリップできる。

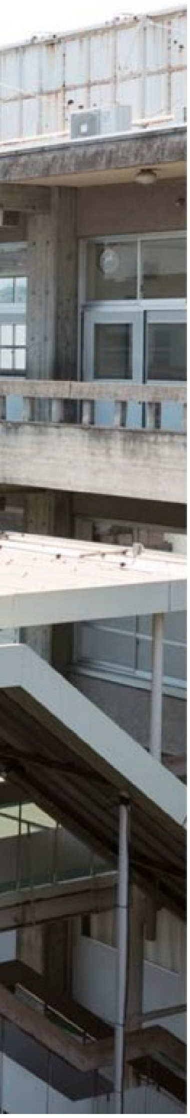
そして
多くの人々の力で
今があることに気付いてほしい。

そんな願いと感謝の思いで
90周年記念にこの小誌を出した。

目次

1 噴火石の校訓碑・・・

21 鳥を呼ぶ・・・



41 宝石をまとった仏像 92
42 内観道場 94
43 国王の印璽 96
44 兵馬俑と幻の敦煌仏 98
45 匠の家 100
46 ビリヤードの名人 102
47 山椒魚のキャンプ場 104
48 夢と流れたＰＬ戦 106
49 生石窯 108
50 チンギス汗の世界 110
51 桃太郎アドベンチャー 112
52 遥照さんよう天文台 114
53 亀岡丸Ⅱ号 116
54 犬島物語 118
55 ミステリー・アイランド 120
56 ホワイト・ハウス 122
57 お犬様通る 124
おかやま山陽モノ話マップ 130
あとがき 133

1 噴火石の校訓碑

道後温泉へ職員旅行の途中、
高速松山道の工事にぶつかった。
その道端に大きな岩が２つころがっていた。
近くの屋敷の庭石で大切にされてきたが、
移転先では使用しないとの話。
70周年の記念に校訓を彫る石を探していた時だ。
用途を話すと快く譲ってくれた。
１５００万年前、石鎚山が噴火した。
その時、ふもとに飛んできた火山弾だという。
地元ではそれを噴火石と名付けて珍重してきたらしい。
見かけより硬度が高い石らしく、
彫りかけたダイヤモンドカッターが何回も駄目になったと聞いた。
同窓生有志の好意で平成６年に完成し式典に間に合った。

「どうやってここまで運んだんです」
と聞く人がいる。
大きすぎて通学路では通れなかっただろうにと思っているらしい。
「石鎚山の天狗が一晩で運んで来てくれました」
と答えることにしている。

自律創生
信念貫徹
共存共栄

2　秀吉のソテツ

鉄筋３階の本館が建った昭和45年（１９７０）頃。
玄関前が元の運動場だっただけにどうも締まらない。
「車廻しを造り、中心に木を植えよう」
とまとまった。
職員室でもちを焼きながらのストーブ談議で
「金光に良い木がある」
との情報。
なんと、秀吉が小田原征伐の戦勝祝いに
大三島神社に寄進したソテツだという。
「本物じゃないよ」
とだれも信用しない。
しかし、威風堂々としていて老木と見える。
「寄せ植え物じゃない。一本だてで、その根の
　コブは充分年代を証明できるよ」
と植木の趣味のある教員。
「ウチの看板だから、売らない」
という植木屋の主人の説得に日参した。
同窓会有志の志を生かし、創立50周年記念樹として
昭和45年の式に間に合った。

「本物ですか？」
看板を読んでやはり質問がくる。
「ソテツの花をじっと見ていると、秀吉の顔が浮かんでくるよ」
と言っている。

3 原田林市先生頌徳碑

信念の貫徹、自律創生、共存共栄の三綱領を建学の精神として、先生がかめよ夫人と共にこの地に岡山県生石高等女学校を設立されたのは大正十三年先生三十九才の春であった。

ご夫婦共前途洋々の公職を退き困難な私学経営の道に踏み切られた信念的決意は感歎の他はない。生石教員養成、女子職業、農商—のち改め山陽工業学校（昭和十二年六月）と次々特色ある学校を設立、昭和二十二年四月、以上の学校を統合して岡山県山陽高等学校となる。

ほかに岡山女子短期大学を新学制下いち早く設立今日に至る。

昭和四十年文化の秋、勲三等瑞宝章に叙せられ学園に一段の栄光を添えた。

ここに創立五十周年を迎えるに当り、改めて先生の偉大なる功績を敬仰する。

昭和四十八年十一月一日

原田雄次謹書

頌徳碑とは功績をほめたたえる碑のこと。

2代目校長、原田雄次先生の自筆だ。

生石の地に私学の生きた水を求め、井戸を掘った創立者の功績をたたえている。

「水を飲むとき、井戸を掘った人を忘れてはならない」

と常に説かれていた。

碑文が読みづらいので全文を写した。

頌徳碑
原田林市先生
昭和四十八年十一月一日
原田雅夜謹書

4 校歌碑「白土ヶ丘」

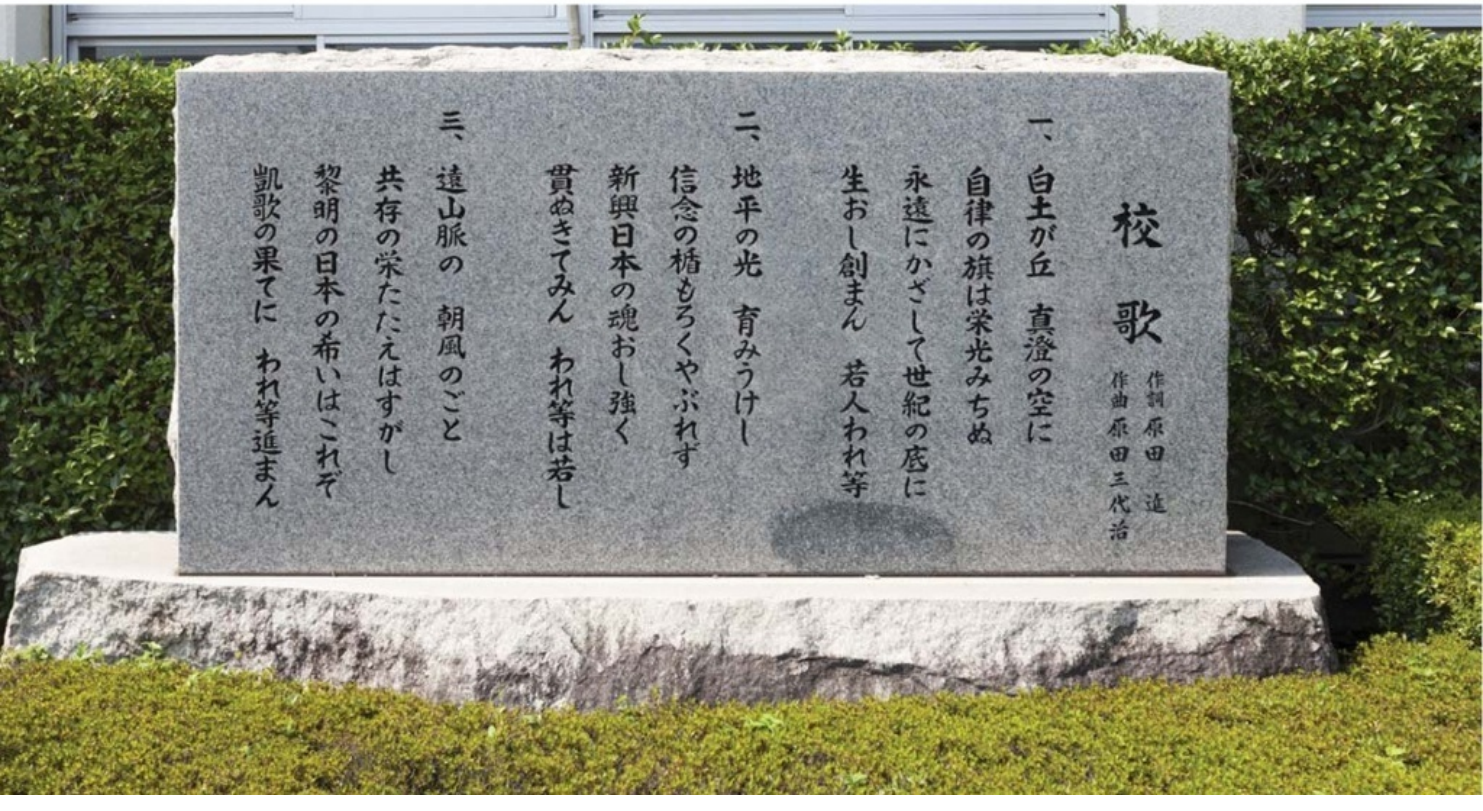
90年前の創立時からの校歌。
「白土ヶ丘」とは学校の建つ丘がそう呼ばれていた。
林市先生の長男 進氏の作詞。作曲者は不詳。
後継者にと育てられていたが、
一人息子の顔を見ることなく、29才の若さで日中戦争中に戦死した。
国学院大学では折口信夫（釈迢空）と交遊。

「大倭（おおやまと） 日高見（ひたかみ）の国に
生れきて けふの
御召（みめし）にあつる 嬉しも」

と歌を残して、出陣した。
「昭和万葉集」に選ばれたこの歌は、町内にある菩提寺・明王院に建てられている。
校歌の1番に「自律創生」、2番に「信念貫徹」、3番に「共存共栄」が格調高く詠みこまれている。
この3つは関東大震災後の日本復興を願った創立者の建学精神だ。
大正・昭和・平成と時代は変わったが詩の文言が変わることなく受け継がれてきた。

「作曲者名が3代目校長とは。
どうして？」
と不思議がられることがある。
昭和60年（1985）甲子園大会の県予選で勝ち進んでいた野球場内に流れた校歌。
「自分の卒業した旧制の寮歌に似ている」
と教えてくれた人がいた。
高名な作曲家の曲と判り、急いでつくり変えた。
インターネットの現在なら起こらない事件である。

校歌碑は70周年の記念に保護者会の元会員による「小山城会」から寄贈された。
「もう時効だろう」
とその時から作曲者名を表示することにした。



5 「新羅焼の馬」と「白磁の大虎」

昭和59年(１９８４)第１回韓国修学旅行。
２年生約３００人が５泊６日で釜山へフェリーで渡った。

「地球がゆれている」
と大騒ぎしながら11台のバスに乗り込んだ。
パトカーが先導し、赤信号を青に変え
ノン・ストップで千年の古都慶州へ走った。
その時の記念に求めたのが「新羅焼の馬」だ。

ソウル市の姉妹校縁組を結んだ新進工業高校を訪問。
校庭に迷彩服の１５００人の生徒が並び、楽隊演奏の中、
国旗、校旗を先頭に行進して歓迎してくれた。
「僕たちはダラダラして恥ずかしかった」
とある生徒の反省文。
レンガ造りの体育館の床は土だった。
テコンドウの演技、まけじと空手の演舞、交歓会は盛り上がった。
「夜間外出禁止令」にビックリ。
午後３時のサイレンでソウル中が避難訓練で静まる。
南北分断国家の厳しい現実にふれた。

ソウル・オリンピック
１９８８年頃から訪問のたび
学校の施設やトイレがキレイ
になってきた。
「クサくて食べたくない」
と言っていたキムチが家への
土産の人気品になった。
「近くて近い国」にしたいと
旅は続いた。
が政治の変化に左右され、
２０００年に訪問は中止にな
った。
「白磁の大虎」は韓国からの
訪問団、焼酒好きの校長から
のプレゼントである。

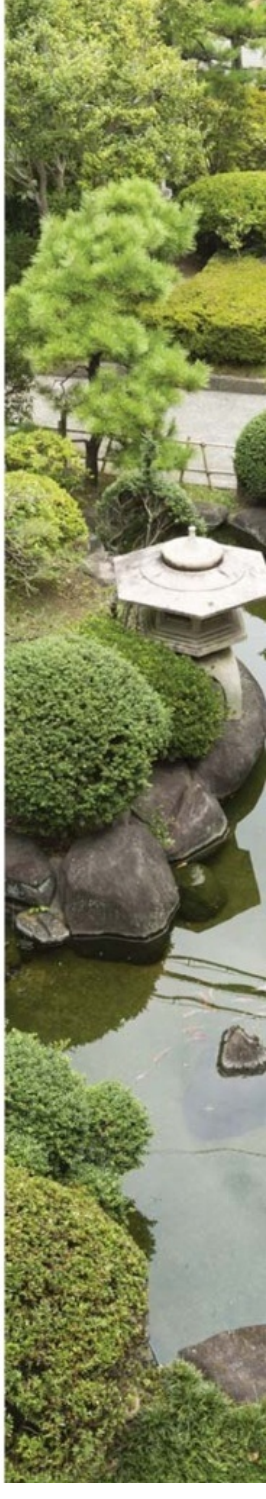
その後、海外修学旅行は、
ヨーロッパ、アメリカ、タイ、
ベトナム、モンゴルなどへ
クラス別に行われている。

6 ガーデン・スクール

40年前、念願の鉄筋校舎が完成し、
アメリカからの高校生を案内した時、彼はポツリと
「刑務所みたい」
たしかに、オレゴンで見学した高校は平屋建てで
豊かな緑の木立と芝生に囲まれていた。

それからの学校づくりの目標は日本らしい伝統を生かした
「ガーデン・スクール」にすると決まった。

庭石は真庭市の山から出る「かぶと岩」が
蒜山キャンプに引率の時、偶然手に入った。
大阪万博で日本庭園をつくるため運んでいる石だった。
業者に頼んでトラック2台分分けてもらった。
「トラックの荷台が壊れた。」
と運んでくれた教職員。
「とにかく重かったです。」



池も出来た。
「鯉を飼おう」
との案には、
心配する声が大きかった。
そして冬休み明け、
池には一匹の魚もいなかった。

天敵は、しかし、サギだった。

今でも苦心して防護網で
防いでいる。

錦鯉は、生徒の姿を見ると
エサをねだって集まってくる。
「アッ！　魚がいるよ」
オープンスクールに来た
中学生の歓声が響く。

7 上ばき中止

「靴入れはどこですか？」
校舎の入り口で新入生がとまどっている。
そして、校内は原則として土足でいいと知ると
意外な顔をする。
「ジュース」「パン」なども自由に販売機から買えると知り
高校生になって良かったという。

昭和44（1969）年から校舎の鉄筋化がすすんだ。
火災防止が一つの目的であったが、上履きをなくすことを考えていた。
置き場所の確保、紛失のトラブル処理に手がかかっていた。
日本の生活様式も西洋化がすすみ、
会社員が土足で事務をするのはあたりまえの話だった。
そこで保守的な学校の常識を見直すことにした。
「教室に土があがる」
「汚れて衛生的でない」
と反対論はあった。
そこで、校内をグランド以外完全舗装した。
掃除は、ゴミ拾いとコンクリートフロアのモップがけですませている。
「きれいですね」と来校者にほめられてきた。

8 ゴルフ練習場

「こんなの、ゴーヤチャンプルじゃない」
と涙声。
調理科の先生の苦心作でも何か味が違うらしい。
沖縄から入学してきた少女はどうもホームシックのようだった。
「やっと判りました。駐留軍のポーク缶で作ったら大喜びです。
元気になりました」
平成17年の国体開催を控え、県保健体育課の要請で始めたゴルフ部。
沖縄では放課後、
小中学生には、ゴルフ場が無料でラウンドさせてくれると聞いていた。
「高校生にゴルフなどを教えるのか」
と近隣のゴルフ場は門前払いだった。
仕方なく、自分たちでつくった練習場が校舎の屋上の活用。
「ハトでも飼いはじめたんですか」
と冷笑されたが。
この沖縄からの二人娘は今では、日本の女子プロの牽引者になっている。
「どうしてゴルフ部は中止したの」
と聞かれる今。
「うちは高校のスポーツとしての部です。
プロの養成スクールではありません。特別扱いはできませんから」

と入学を断っている。

9 橋上駅の夢

「国道2号線の測量は土木科の我々がしたんだ」
昭和30年代の卒業生の思い出話だ。
今年12月にはその国道に自由橋通路が完成し、
鴨方駅からの通学生は便利になる。

平成18年の文化祭、土木科生による「夢の鴨方駅」の模型が展示された。
町議会でも話題になり
南北を結ぶ通路実現のあと押しになったと聞く。

山陽工業学校は、産業報国の戦士育成の夢で昭和12年に生まれた。
次の年、教頭として着任した2代目校長が育ててきた。
県内外の土木業者の子弟や朝鮮半島からも入学者があった。
土木科４３０１名の卒業生は県内はもとより関西圏の土木会社、公務員として
活躍し「土木の山高」といわれたが、
時代の変化で、高卒者の進路として需要が減りはじめた。
その看板の学科をなくすことはつらい決断だった。
生前創立者から聞いたことがある。
「機械科もつくりたかったんだ。が、資金難で断念した」と。

現在では機械科も生まれ、
ものづくり日本を支える新しい人材育成が進んでいる。
泉下（せんか）の創立者の「育ての親」の2代目に大目にみてもらえるだろうか。

10

「エア・コン」

「千円の電気代くらい、負担しますからエア・コンを付けてやって下さい」
とある保護者。
「公立高校でも付いている。私立なんだから他校並みにつけて」
と生徒の声。
「昔の暑さと違いますね。それに家でエア・コンで育ってきていますから」
と若手の教員。
「外での建設現場で働かねばならぬ者は、暑さ寒さに慣れておかねば」
と云っていたが土木・建築の廃科でその理由も云えなくなった。
ここぞとばかり急に主張が強くなった。
「勉強に集中させてやりましょう」
「隣の小学校には付いてないぞ」
「インフルエンザが流行しやすいぞ」
「体育の授業に外へ出たがらないと聞くが」
「閉じこもって衛生的にわるい」
など云っていたが
「新校長が付けてといったら考えるから」
で幕を降ろした。
校長交代した平成19年のことである。

「艱難汝を玉にす」
は時代遅れだと云われた。
しかし、異常な暑さが続いても、苦情ももれず校内は静かなものである。

11 空手像のナゾ

「モデルがタキセンだって。似てないよね」
「でも50年前はこんな顔だったかも」
昼休みのベンチの女生徒のおしゃべりである。
空手道部の史上初の男女アベック全国優勝で
校内が盛り上っていた１９８８年頃。
「人間国宝の彫刻家、松田尚之氏の
『から手』という作品を校内に飾らせてもらえるかもしれない」
との話があった。
１９６４年に新日展への出品作。
当時、京都で学生だった滝本先生がモデルになったと聞いていた。
その時の縁とその後の活躍ぶりを喜ばれてのプレゼントだった。
早速　北白川の疏水添いの閑静なアトリエで、
作品に対面。
石膏像だった。
外に飾るためブロンズに鋳造してもらい、届いたのは次の年だった。
中庭に据えられ「栄光」と先生に書いていただいた。
台座には全国優勝した記録をはりつけていった。
今では、それも一杯になり新しい石碑に追加している。
黒部第４ダムの大きな慰霊像も同じモデルを使っての松田先生の作である。

榮光

12 六百年のはじらい

鉄骨木造の２階建ての土木実習棟・建築実習棟を移動した昭和47年（１９７２）。
家引き業者は、家全体をジャッキで持ち上げ
ソローリと引っぱっていく。
その跡地に新館３階を計画していた。
限られた校地を有効利用し、
生徒の動線を考えていくにはいろいろ工夫がいった。
そんな時、ある保護者から
「九州のお寺の庭の処分を請け負った。良い木がある。要るなら運ぶよ」
「特に樹齢６００年といわれている山茶花はまずどこにもないよ」
と耳寄りな話があった。
久留米までトラックに同乗して見に行った。
「垣根の垣根の曲がり角」の童謡から、
山茶花は小ぶりの樹だろうと思っていた。
しかし見上げるような大木だった。
頂は何メートルになるか。
一緒にケヤキの大木も２本もらって帰った。
以来、早春の中庭は薄いピンク色の花でおおわれる。
その姿は、はかなげな風情である。
しかし、花言葉は「困難に打ち勝つ」「ひたむき」とある。

13 北木の陰陽石

保護者の研修会で北木島に行った。
民家の軒先に不思議なみかげ石を見つけた。
調べると東京芸大の先生と学生が彫った彫刻だという。
東京オリンピック１９６４年の頃、島に滞在し、製作していたそうだ。
題名は「輪」と付けられていて、
聖火の炎を表しているそうだ。
忘れられていた貴重な芸術作品であった。
「とにかく面白い」
と学校へ引き取った(１９８４)。
中庭に鎮座している作品を見て
「陰陽石ですね」
と言う人もいる。
「先生、陰陽石たら何？」
と聞く生徒がいる。
「岡山の後楽園へ行ってガイドさんに聞いてごらん。
　伝統ある名園には必ずあるものだよ」
とだけ答えている。
昭和天皇、岡山ご巡幸の時、
説明をうけた皇后様がお笑いになったという話は黙っている。

14 「何もなくて豊かな島」のパッチ・ワーク

「トイレは朝、海ですますんだって」
「泊まる小屋はヤシの木と葉でつくられているそうよ」
「夜は電気もなく、ローソクだけ」
「イヤダー！　修学旅行なのに、そんな所へ行きたくない」
平成21年、進学コースの修学旅行発表は大変な騒ぎで始まった。
英語会話力をつけるため、英語だけしか使えないフィリピンのセブ島にある英語村に体験入学するのが目的だった。

セブ島の沖、カオハガンという小島を退職金で
買ってくらしている日本人の体験談の文庫本を読んだ。
会いに行って感銘をうけた。
人間が豊かな自然と共存して暮らしていくのに
必要な最低のものをそろえようと、
島民と頑張っている崎山夫婦の生き方を生徒に見せたいと思った。
そのため2枚のパッチ・ワークを買って帰った。
収入のない島民に奥さんがパッチ・ワークを教えた。
それを観光客に販売し、電気をおこし、
水をつくり共同トイレをそなえたくらしが出来かけていた。
島へ行ってから、行く前とちがった視点を生徒達は持ち帰ったようだ。

その旅の体験談が
全国弁論大会で入賞した。
その内容は、
素朴な島民の子供との交流で、
恵まれた自分に感謝しながら
人の為に何が出来るかを
考え始めた内容だった。

フィリピン観光局から、
国のイメージ・チェンジをはかり
若者を呼び寄せたいと云って、
その作文を
パンフレットに載せさせてくれと
依頼があった。

15 ホワイト・ボード

平成18年、
全教室から黒板がなくなった。

チョークの粉は校害の一つである。
板書をよくする教員ほど気管支が傷むようだ。

目の届く前の席に座らされる生徒、真面目な
勉強家で前に来たがる生徒もチョーク被害を受ける。

ホワイト・ボードに取り替える費用は結構かかる。
「光って見えにくいのでは」
と否定的意見も出た。

安価なチョークよりいろいろと費用がかさむのが痛い。
「ちょっとでも良いと思うことは挑戦してみようよ」
と決めた。

その後、あまり他校で切り替えたという声はきかない。

16 雄峯碑

碧空(あおぞら)に
神昇りしか
遥照の
尾根間の霧は
あやに彩(いろど)る

2代目校長の原田雄次先生辞世の句となった。
昭和62年5月21日に除幕し、次の年の4月にこの世を去る。
予感があったのだろうか。
見上げる遥照の雲間に神の姿を見ている。

昭和13年出来たばかりの山陽工業学校に教頭として着任。
新設の土木科を師弟同行で育てあげ、
戦後の復興のためと建築科を起こした。

「コッテ牛」と呼ばれ、厳しい時代の厳しい指導があったようだ。
明治生まれの忍耐の人で初代生存中は校長と名乗らなかった。

晩年は雄峯の号で
文人の世界に遊んだ。
南画・謡・彫刻・書と多彩で
いずれも素人の域ではない。

情の人であった。
その持ち味の温かさを
なつかしむ卒業生からは
今も慕われている。

叙勲の祝いに贈られた胸像が
土木・建築記念碑を
いつくしむように
前庭に建っている。

17 土木の置き土産

調理科の「なごむテラス」を囲んで
コンクリート製の白いプランターがある。
昼時、調理実習の料理を昼食として
にぎやかに食べている広場である。
植え込まれたどうだんつつじの下をのぞくと
「土木科製作平成21年」
の名札が小さく付いている。

これが最後の土木科生の実習作品である。
卒業生は４３０１名になった。
「土木の山高」
といわれた割に、校内には目立つ物が残っていない。
精巧な橋梁模型はあったが外には出せない。

地味な物だが生徒の役に立っているものがある。
中庭に並んでいるコンクリート擬木づくりのベンチと倚子である。
「土木科作」
とペンキで小さく書いてある。
いかにも質実剛健な科らしい。

お尻が冷たいだろうと思うが、
そこで弁当をグループで食べながらもりあがっている。
教科書を広げている姿もある。
その一方、保護者会から贈られた木製のベンチは
くつろぐのに向いているようだ。
放課後に、黙って座り、壁画を見ている姿を見かける。

18 組み立て式茶室

「にじり口の作法がうまく出来ない」
と調理科の生徒。
「一人一人に体験させる時間が充分とれない」
と茶道師範の弁。
大正13年創立の時から、茶道を正科として教えてきた。
校母カメヨ夫人からの伝統である。
庭の４畳半の茶室では50人近くの一斉授業は難しかった。

平成20年秋、
ロサンゼルスの「ジャパン・エキスポ」で組み立て式茶室が登場した。
２人で１時間で組み立てられるので、
その後スイスから注文を受けるなど海外でも好評という。
鳥取の考案者に
「大広間の中にすえる」
「壁の一面をなくし、室内の作法を全員が見れるように」
改良をしてもらった。
本校で行った平成23年度の全国食物・調理科大会では話題になった。
「多くの学校から注文が来ますよ」
と言ったが、結果は聞いてない。

19 彫像壁画「感覚サレルベキモノ」

川埜龍三氏の作品とは笠岡のスーパーでの個展で
出会った。
椅子にゆったりと座っている祖母像だった。
「祖母さんには可愛がられたのだな」
と伝わる、愛情あふれる彫刻だった。
そして24才の作者が持つ「神の手」の造形力に圧倒された。
その場で「希望」をテーマに壁画を依頼した。
それから3年たった
平成15年(2003)10月
80周年事業の一つとして彫像壁画が完成した。
「感覚サレルベキモノ」
と名付けられた5m×9mの大きな群像だった。そして
「何か解説を」
との要望に一編の詩を示した。

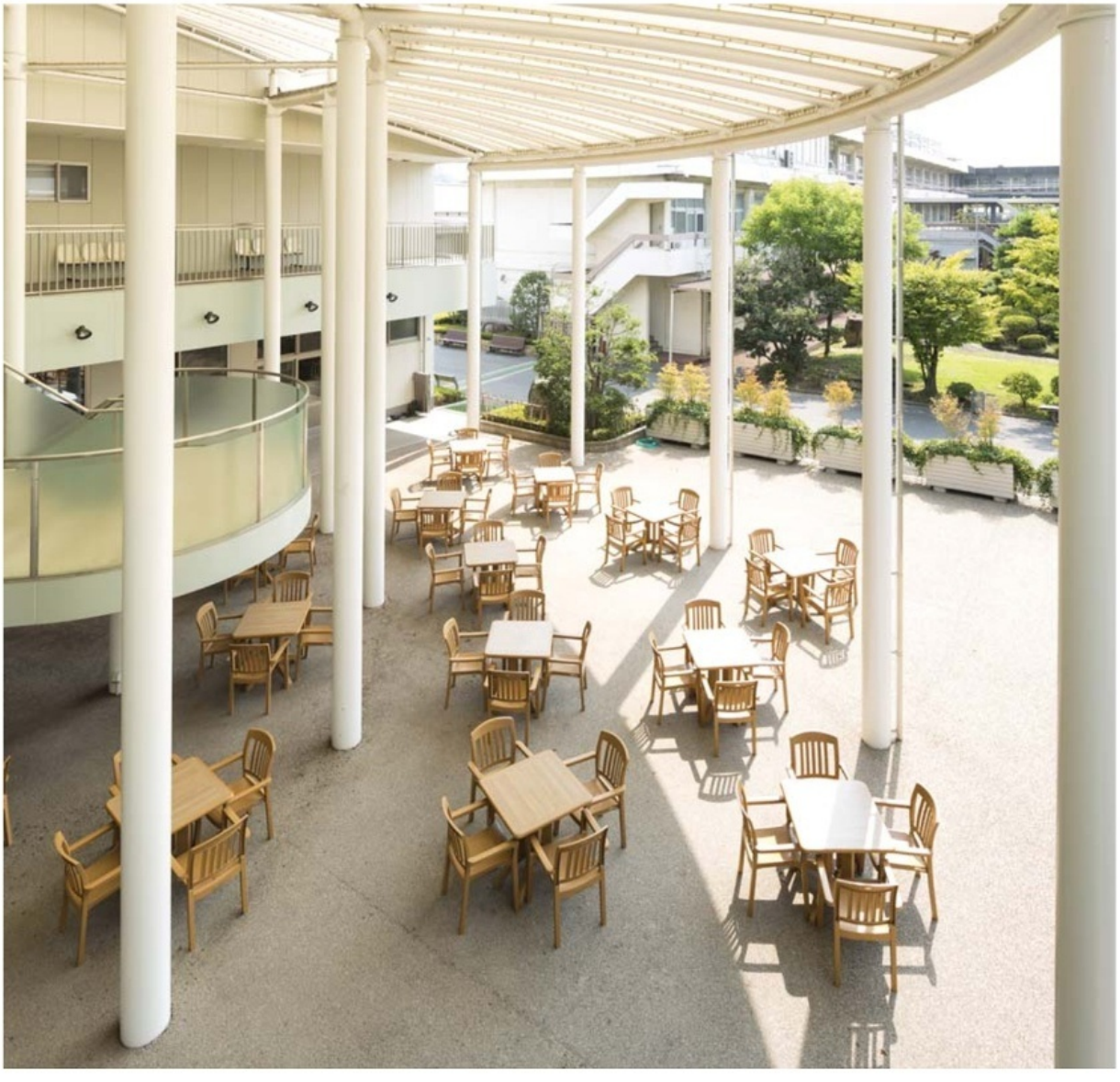
「感覚サレルベキモノ」
瞬(まばた)きもせず行く　記憶の街で
いのちをつぐ風景がある
陽のため　進む森の中
はじめからバイオリンは鳴っている
手のひらを展開するカラクリに
終わらない螺旋(らせん)のことを考えている
絶えず頭には　等間隔に並べられ
決して交わらない言葉がある
それは素晴らしい世界
大地は情熱で揺れている
無限ではなく　ただその前に流転する
感覚サレルベキモノ
僕等　つかの間の曉(あかつき)

そして
テーマの「希望」とは、
「各自好きなように感じとってくれ」と言っているようだった。

20 結婚式をどうぞ

平成21年（２００９）に出来た調理・製菓の実習棟。
コの字型の建物の真中に天床をテントでおおった広場をつくることになった。
２階の「ホテル実習室」「茶道礼法室」から
中央回り階段が広場の真中に降りてくる設計だ。
「なごむテラス」と名付けられた広場には机・椅子を並べ自由に団欒（だんらん）できる。

やってきた卒業生のカップルが式の費用に悩んでいた。
「ここで結婚式をあげないか」
「料理は後輩が集団調理として実費でつくるよ」
「サービスはボランティアでする」
「ウエディング衣装は資格専門コースがそなえている」
「化粧もしてあげる」
「じゃあ、お金かからんな」
と、２人の目はハートマークになっている。
そばで教員が興味深そうに笑っている。
毎日にぎやかに弁当を食べている「なごむテラス」のセンター階段から
吹奏楽部の演奏で降りてくるカップル。
結局は親の反対で断念。
「ホテルできちっと式を挙げてくれ。費用は出すから」



21 鳥を呼ぶ

昭和59年、創立60周年を迎え、多目的な記念館を計画した。
１階に工業実習場・２階に調理科を新設する。
３階に講堂兼体育館・４階にトレーニング場。
３０ｍ×５０ｍ、鉄筋４階建　５０００㎡の規模になった。
施工は従来の卒業生の縁でなく、ゼネコンの設計施工に決めた。
各階の床をＸ軸・Ｙ軸のピアノ線でつる「アンボンド工法」という
特許工法が決め手となった。
床下のハリが薄くなり配管・配線に便利で
防音にすぐれるという宣伝文句にもひかれた。
設計は一年がかり。
「２階の空手道場の中の柱を抜いてくれ」
との要望には構造再計算に大変だった。
記念式典でＯＢから「Ａ級の建物」だと理解してもらった。
二科会の重鎮、中山徳次氏が「朝日ジャーナル」の表紙を飾った
「鳥を呼ぶ」
50号がロビーで来賓者を迎えた。
松江市のアトリエへ行き破格の値段でゆずってもらった。
「長男が設計した建物へのごほうび」
とは言われなかったが。

J. Yamanaka
鳥を呼ぶ
山中信次画

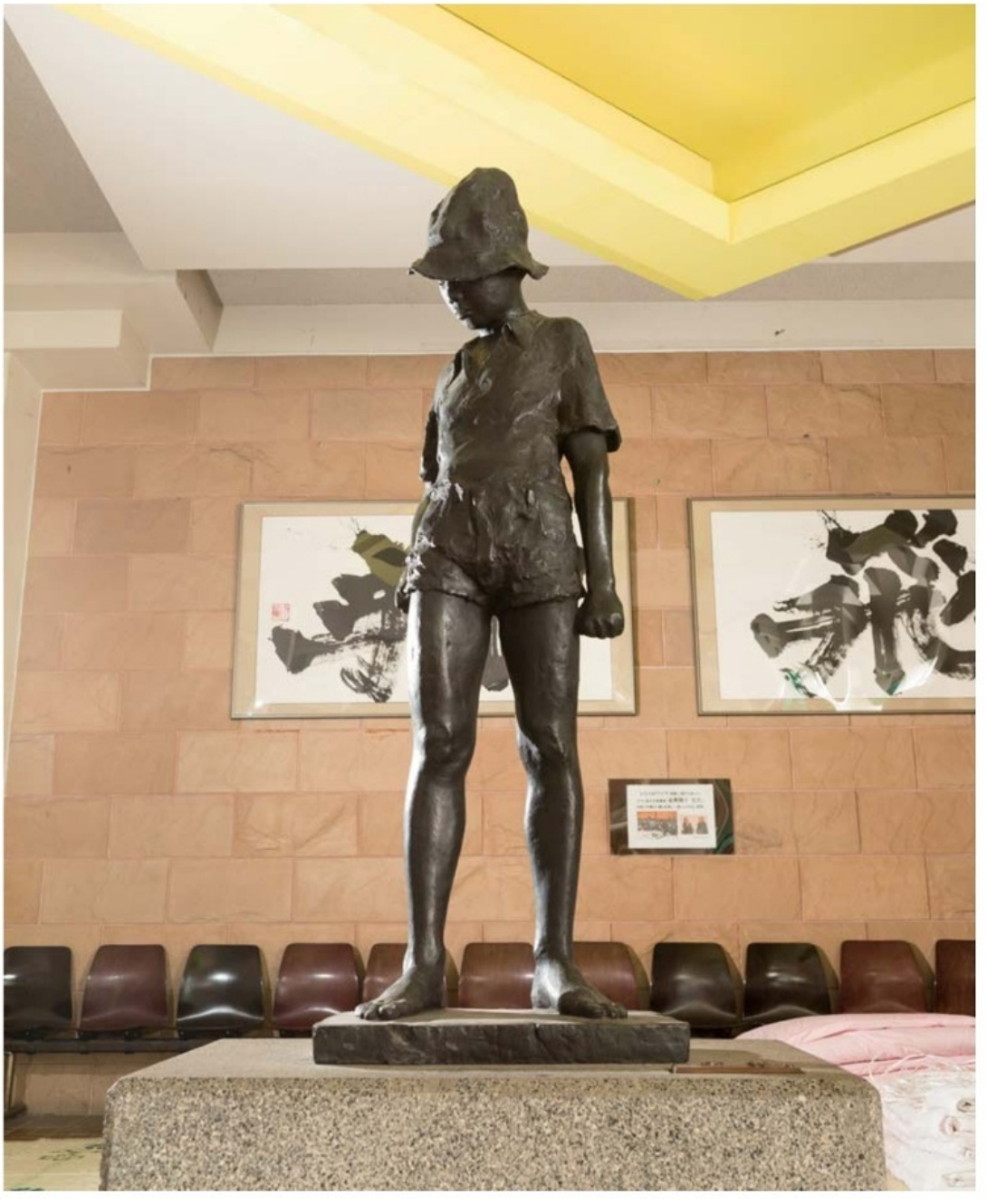
22 叱られ坊主

「お前に似てるぞ」とはやしている声。
60周年館のロビーにある少年像のことらしい。

昭和59年（１９８４）に落成記念に贈られた。
それから30年近く「なにクソッとこぶしを握って」ずっと立っていた少年。

ところが平成12年にこの像に会いに来た人がいた。
作品集を出すから撮影許可がほしいと。

作者、金盛秀禎氏は高校で美術を教えていたそうで、
その教え子の中に、彫像作家の川埜氏がいたという。
師弟のつくった２つの少年像が校内で時代を
へだてて何を対話しているのだろうか。



ソーラーカー山陽桃太郎号

「製作費はいくらですか？」
「ウーン、結構かかった」
としか言わなかった。
冬休みや週末は徹夜で作業する部員と教員の
姿をみせられては、金をけちる事は出来ない。
２００万円以上はかかった。

１９９１年頃から自動車構造と環境問題を学ばせるため
次世代エコカーとしてソーラーカーを、製作をしてきた。
２台目が「山陽桃太郎号」である。
長さ６ｍ・幅２ｍ・高さ84ｃｍ・１人乗り。
車体はカーボンパネルを使用しソーラーパネル27枚を張った。
笠岡農道空港の試走で時速75ｋｍを出した。
３月15日、岡山自動車道の開通イベントに出場し披露した。
夏休みには鈴鹿サーキットの８時間耐久レースに出場。
チャレンジ・クラスで８位に入った。
「冬休みはオーストラリア大陸横断レースに出たい」
と云ってきた。
「今迄よくやった。もうここで打ち止めだ」

自動車科の生みの親の
山本教諭(現教頭)は、
「自動車コースを作ってほしい」
と言ってきた時に、
「ちょっと待て。
今、調理の申請で忙しい」
と言うと
自分で夜間の講習をうけ、
三級整備士免許をとってきた。
次で二級を取得。

それではと、
工業経営科の中に自動車分解・
整備事業の認定をとって、
自動車コースのスタートを切った。
昭和59年(1984)のことだった。

飲み会などで他科から「ブレーキの効かない自動車科」とからかわれている。
何かをやりだしたらトコトン前へ進むのがこの科の伝統になったようだ。

24 教頭の門

52歳の教頭が病死した。
49日法要が済んだ遺族から遺品として手渡された封筒があった。
その中には１００万円の現金が入っていた。
そして勤務中の感謝の文章に続いて、
残していく生徒たちへの思いと母校の発展を祈る言葉があった。

生前、こんな事を話していた。
中学時代、勉強が不得意だった自分が
山陽高校の工業経営科に入り学ぶ面白さに目覚めた。

成績はトップ級にあがり、大学は特待生として無償で入学でき、
卒業時には大学教授として残るよう誘われたそうだ。
しかし自分の体験を生かすため高校教師になりたいと現場へ出た。
他校で実績を積み母校の教師に帰ってきてくれた。
進路指導としていろいろ資格に挑戦をさせながら、
各自の持ち味を伸ばす実践教育で生徒を引っぱっていった。

腎臓透析をしながら無理な勤務を続けていたらしい。強制的に入院させたが、
手遅れだった。

もっと早ければなんとか手が打てたと言われた。
通夜の晩、公務員になった教え子が全国から駆けつけ、
その１００人を超える数に遺族は驚いていた。

さて遺品の使い道である。
通学門が古くなり、
戸締まりに難儀していたので
教頭の志を生かし、
校門を作り変えることになった。
その門扉に、
彼の自筆の名前をしるし
記念にすることに
意見がまとまった。
ワープロを教えていた彼らしく
自筆の文字が見つからないが、
ゴミ箱に名前を書いて
いるのが見つかった。
毎朝、校門を開けるたび
朗らかな彼の笑い声が
聞こえてくるという。

「飛翔」

体育館は2月、底冷えする朝だった。
ダウン症の書家、金澤翔子ちゃんは重さ3kgの大筆を抱え、
床に置かれた半畳の広さの和紙の前にすっと立った。
気合と共に墨汁をとばしながら筆を走らせた。
そしてまたたく間に「飛翔」という字が生まれた。
この額は60周年記念館のロビーに飾られている。

全校生徒の前で席上揮毫が行われた後、トーク・ショウに移った。
「今度、生まれたら何になりたいの」
と男子生徒
「マイケル・ジャクソンが大好き。今度はマイケル翔子になりたい」
「踊りを見て！」
とBADを披露してくれた。
「翔子ちゃんはいつも笑顔で真剣で、
　こんなに笑えて楽しかった講演は初めてです」
と感想文の一つ。
「知能指数は4歳〜7歳のレベルです。
　でも翔子は決して可哀そうじゃない」
と27歳迄、育ててきた書家のお母さんの言葉。

「私は発達障害の弟にいつも
イライラしてきつい言い方
をしてきました。
私もお母さんを見習い弟を
守っていこうと思います」
と女子生徒。
「誰にでも才能が有るんだな。
諦めてはいけないんだ」
と男子生徒。

翔子ちゃん親子は生徒にもい
ろんな刺激を与えたようだ。
まさに「自律」して「創生」
しているお手本であった。

「自律創生」
この4文字を書いてもらい
屏風にして90周年の記念館に、
永久保存することになった。

26 鉄道レールのバック・ネット

「井笠鉄道のレールなら手に入るよ」
野球部を再開するため、国道2号線側にグランドを買収し始めた。
払下げてもらったレールを加工して、
なんとか隣家への飛球が防げる程度の高さのバック・ネットが出来た。
ところがバック・ネットを建てたとたん、
その前面の１００坪程の地主が売るのをしぶり出した。
条件を上げて合意しても、地目変更の印を押すだんになると断られる。
２度、３度と続いた。

しかたなく、石が入らないよう土堤をつくり、練習することにした。
変形のグランドで小石を拾いながら硬式野球部は再開した。
昭和42年（１９６７）であった。
弁護士の助けで、土地は確保出来たが、
３倍の土地を渡し、その上かなりな金額を支払わされた。
教育のためといっても私立という名が上につくと
世間ではもうけ仕事と思われることがあるのを覚え知らされた。

この粗末なグランドから、オールスターの先発ロッテ仁科投手は生まれた。
恵まれた所だけから人材は生まれるのではないことも判った。

27 太陽の詩

60周年記念館の北面に大きな壁画が取り付けられている。
30年余の風雨に耐え、西日に美しく輝いている。
備前焼の小さな陶片で、太陽の周りを飛ぶ7羽の鳩が描かれている。
「太陽の詩　　製作　たけのこ村」の銘板が付いている。

１９８０年頃、ＮＨＫラジオで秋山ちえ子さんが
「岡山の真備町に知的障害者が自立している村がある」
と紹介した。
不況になると一番に辞めさせられた7人の教え子のために、
広島の中学教師を早期退職した藤岡先生が開いた村だという。
「一杯の水を与えられるより井戸を掘ろう」
が、たけのこ村の自立の哲学である。
村で見せてもらった備前焼は手造りでていねいにつくられ素朴で力強かった。
「自律創生」の校訓に共感していただき壁画を2年がかりで製作してもらった。
５０００枚焼いた中で３０００枚が使えたとか。
その三角形の小さなタイル片を一片ずつ壁面にぬいつける難作業は
施工業者の協力で実現した。
除幕式は7人の村民、藤岡村長そして生徒代表の手で行われ、
その様子はＮＨＫテレビで全国に放映された。

28 ソロバン

「商業科はテレビ放送が始まった昭和27年（１９７２）の生まれだ。
　ソロバン検定への競争をしていたよ」

やがて商業に希望する男子から減りはじめた。
東京オリンピックが成功し、大阪万博の準備中で、
日本が高度成長へ沸いてきた。
土木・建築は希望者が多く、そこから商業に転科合格させることもあった。

昭和42年、商業科の魅力づくりに「中小企業の経理と管理が出来る者」を
養成する工業経営科がつくられた。
高校には珍しいカリキュラムで入る希望者は増加した。

25年たった昭和61年、
自動車の時代に対応し、その中から自動車科が生まれた。
工業経営科は情報系、電子系、機械系などと変化しながら
平成20年ついにものづくりの大本である
機械科を名乗ることになった。

山陽工業学校の創立者の夢が83年で実現した。

29 生石ホールの響き

「残響１・６秒が達成されました」
「東京サントリーホールと同じレベルです」
平成９年（１９７７）に落成した生石ホール
70周年記念館に続いての記念建築で生石の名を復活させた。

１階はパソコン実習やＮＣ旋盤など機械工作機が並んでいる。
２階のホールは普通科音楽コースの発表と校内催しのための会場である。
高い天井の下に１８０人の階段座席とフロアがあり
４００人が収容できるホールが生まれた。

音響には吹奏楽指導者から強い要望があり、
コンピューターを駆使して設計してもらった。
おかげで、全国大会で金賞も実現し、ホールは
校内外の各種催しにフル稼動している。

地元の川上一己画伯の「フルートを吹く少女」の絵が来場者を迎えている。

地域で「生石ホールの会」を立ち上げたが、
落語会を常設するプロジェクトだけは手が廻らず、現在に到っている。

30

メカ・プラザ

土木実習棟・建築実習棟を取り壊し
90周年事業で、自律館・創生館がコの字型に建った。

その真中の空間に、いこいの広場を造ることになった。
「調理実習棟の『なごむテラス』をうらやましがっています」
と聞いていた。

テント構造なのに建築確認に意外に手間取り、完成が6月にずれ込んだ。

愛称は「工業広場」「ものづくり広場」「エンジニア広場」などの中から
自動車科・機械科で話し合い
「メカ・プラザ」
に落着いた。

周りのプランターに月桂樹などを植えた。
それぞれ科の代表が
「勝利の栄冠をめざします」
と除幕式で宣言した。

MECHA PLAZA

31

方谷屏風

「この屏風は備中の聖人方谷さんの書だ」
それ以上の詳しい説明は聞けなかったが林市先生は座敷でよく眺めていた。

山田方谷は江戸の終わり、
高梁で10万両（今の80億円か）の借金で――毎年９千両増えていく――
つぶれかけた板倉藩を建て直した農民出身の陽明学者である。
「知ったことは行わなければならない。
　正しいと思ったことは実行しなければならない」
という知行合一の陽明学を実践した。

武士からの暗殺を恐れず、ぜいたくを禁止した。
特産の砂鉄から備中ぐわを考案、
武士にも農作業を分担させ、藩の収入をふやした。
８年ですべての借金を返し、10年目には10万両の貯えをつくった。
明治政府から要職で招かれたが断り、
閑谷学校を再興し、教育者として生涯を閉じた。

関東大震災の直後、大正13年
39才で私立学校を創立した林市氏は

「自律創生」
「信念貫徹」
「共存共栄」
を校訓とした。
山田方谷の生きかたから多くを学んで
大正ロマンの時代に国土復興を願ったのではないか。

「NHKの大河ドラマに採り上げてほしい」
と地元関係者を中心に署名活動が行われている。
今、日本経済を考えると、方谷のような指導者の登場が望まれている。
備中だけのローカルな人でなく
日本の、世界の、お手本になる人材だ。
遺族から譲り受けた屏風は80周年記念館の座敷に校宝として展示されている。

日富實苑の主

雄次先生が昭和56年11月3日、
勲四等瑞宝章を受けた記念に自宅の襖に書いた。
古民家再生工法で80周年記念館になった旧宅の座敷に現存する。

外交行革善幸経
学園順調念久旌
萬事託後勁尋山
迎古稀夫婦健在

古稀（70歳）を夫婦で元気に迎え
学園も順調だと自分流の漢詩と南画で喜びを表現している。

季節ごとにこの座敷では
「おひな茶会」
「かぶと茶会」
「七夕茶会」
「ゆかた茶会」
「月見茶会」
が開かれている。

調理・製菓の茶道実習として、生徒らが手造りの
料理・お菓子で教職員や近くの六条院小学生をもてなしている。
目を細めて眺めている主が居る気配がするようだ。

33 五重塔

「五重塔を造りたいが設計図が手に入らない。」
「実物をスケッチして図面を起こしたい。」
「奈良へ生徒と出張させて下さい。」
昭和43年(1968)年担任の熱意にこたえた建築科の文化祭展示品だ。

2年がかりの出来栄えの見事さに「永久保存」が決まった。
特注のガラスケースで、今でもロビーに健在である。

建築科は二級設計士をめざす生徒が多い。
製図板で細かい線を入れる実習は、
おとなしい性格の子に向いているようだ。

木造の木組みも習うが、
実物を加工する授業より図面上で習うことになっていた。

五重塔の製作で実際に木をけずり、組み上げていく。
プラモデルにはない面白さ・工夫・失敗を
学んだようだ。

法隆寺五重

34 座右の銘

平成６年（１９９４）10月、
文化祭のある展示がマスコミで大きく取り上げられた。
生徒会役員が収集した「座右の銘」展示だ。

高校生の目線で
「時の人」
「気になる人」
「興味がある人」
「好きな人」
を選び出した。
夏休みから依頼文書と返信用の封筒に色紙を入れて発送したという。

宛先は芸能人、スポーツ選手、政治家、漫画家、
ノーベル賞受賞者、宇宙飛行士など多様であった。
９月になると雲の上の人と思っていた人たちから続々と返事が届いた。
あこがれの人の手書き色紙を見た生徒たちの感激ぶりは大きかった。

どの人も多忙な中、高校生のぶしつけな依頼を叶えて下さったことに、
教職員は感動すると共に己を反省した。

永久保存し、常時展示するため、80周年記念館の会議室や廊下に飾ることになった。

遮光シールをはった額の中でも、瀬戸内の陽光に色紙は薄くなりはじめた。

現在、複製作業が終了し展示が再開されている。

報道を見て同じような依頼が他校から続出したようだ。

が、「柳の下にはやはりどじょうは2匹居なかった」と聞いている。

35 「億万年の波動」とサル

平成15年（２００３）年、
80周年記念に同窓会から贈られた万成石の作品。

作者の寺田武弘氏は、
新入生がハイキングで行く蒜山の塩釜に大きな石の森の作品群がある。
この彫刻は後楽園４００年祭で展示されていた作品だ。

大きな波のように押しよせる時代の姿が淡紅色の石で表現されている。
「何か見えませんか？」
と作家に聞かれた。
「おサルさんですか？」
イタズラッ子のような笑顔でうなずいた。
「日富實苑（ひふみえん）」に入る踏み石の道に彫られている。
園の名前は
「80年間の３人の校長の名にちなんでヒ・フ・ミとつけたのでしょう」
といわれる。
「『歴史を重ねて美しく栄えていく』願いで命名したのです」
と答えている。

億万年の波動

36

「器に学ぶ　器を学ぶ」

「先生の器に自分たちがつくった料理を盛らして下さい。」
と美術年鑑の陶芸家に依頼状を発送していた。

平成10年（１９９８）食物調理研究会の全国大会の開催校になった時。
生徒たちが考えた企画展は
授業で習った北大路魯山人（ろさんじん）の「器は料理の着物」をテーマにして
発表したいということだった。
まもなく、人間国宝をはじめとする著名な方の作品が全国から送られてきた。
そしてお礼は手造りの「マーマレード」と「クッキー」
添えた礼状に
「何かお言葉を下さい」
とあつかましくも、色紙を同封したようだ。
大会では、
各地の多彩な器が作者の色紙と一緒に見られるのは珍しいと好評だった。

この生徒の企画はマスコミで全国に報道された。
「あのあと、各校から依頼が来て困った」
と岡山のデパートの個展に来られたある作者がこぼしていた。
やはり、「２匹目のどじょう」は居なかったようだ。

37

「為生石高女」

郷土の書家で名高い政治家犬養木堂の書である。
生石高女の為にと、何回目かの記念式に書いてくれたと伝わっている。
80周年記念館の座敷に飾られている。
岡山は全国でも珍しい女子教育の先進県といわれる。
「女の子に学問はいらん」
と云われた大正の頃も、私塾、洋裁学校、養成所を前身に
女子校が生まれている。

関東大震災のすぐあと、焼け野原の東京で、
設立申請した文部省は仮事務所だったそうだ。
林市氏は39才で前途を約束された公立教員職を辞めた。
資産があったわけでない。
校舎は統合になった近くの小学校の古い建物を
ゆずりうけた。
「夫婦と4人の子供も手伝わせれば教えられる。」
と女学校を創ろうとした。
「何回も書き直したがとうとう認めてくれた。」
と、どうしても実科女学校でない格上の高等女学校をと、ねばったそうだ。

70周年を迎えた時、
全国食物調理科の展示の
為にと色んな人の色紙を
依頼したアイデアは
この木堂の書にあったの
かもしれない。

38 ヘルベンダー

「台風16号はすごかったな」
「寄島でも高潮で浸水し家から出られなくなったそうだ」
前年の夏の水害、
そんな時の救助活動に役立つ、陸を走れ水の上を進む、
水陸両用車を作ることになった。

自動車整備部員10名が3年がかりで製作。
時速50ｋｍで公道を走れる小型自動車として登録完了。
水上では船舶免許がなくても操縦できる、
2馬力の電動エンジンでスクリューを廻す。
歩いている人並みの時速４ｋｍ程度で走れる性能だ。
水陸どちらでも生きられるオオサンショウウオの
英語名ヘルベンダーと名付けられた。

12月の寒い夕方、高梁川での走行実験。
「岸から走って水に浮いて進んだよ」
との報告に歓声があがった。

製作相談にのってくれていた50ｃｃカー輸入業者と共同で市販するという。

販売価格は49万８千円を予定。
マスコミで取り上げられると
何件か問い合わせがきたようだ。
「これから更に改良してから」
と答えていたようだ。
２００５年
工業高校テクノフォーラムの
最優秀賞を手に、部員たちは
卒業していった。

ヘラクレスオオカブト

平成18年（２００６）一人乗りの小型電気自動車
「チョロＱモーターズのＱ－ＣＡＲ」を企業から寄贈された。

「大きなかぶと虫をつくろう」
と決まった。
自動車整備部員は発泡スチロールの塊をけずり出す。
それから雌型をつくり強化プラスチックで仕上げる。
方法は彫像作家川埜氏が生徒たちに指導してくれた。

大きなツノにはギザギザがつけられ黒光りする精悍な
ヘラクレスオオカブトがオープン・スクールにデビュー。
好評だった。

「この後ろに子供たちをのせて引っぱてやろう」
とは子育て中の教員のアイデア。
「夏祭り」「産業祭」などから来てくれと毎年、要請が続く。
コースの周りに順番を待つ長い行列が出来る。
小さなヘルメットでシートベルトをした子供が
ビデオやカメラの父母に手を振っている。

「高校生になったら
ボクもあんな車つくりたい」
と言っていたそうだ。

40 世界一への挑戦

平成22年、新学期の放課後、
入学したての1年生数人が、自動車整備実習場で何かを作っていた。

ゼロ半カーを作っているのだと思った。
ゼロ半とは50ｃｃのオートバイのエンジンのことだ。
手作りの車体フレームにそれを取り付け、競争する
全日本ゼロ半カー・レースを本校が主管校となって10年前から実施してきた。

ところが、生徒たちはギネスに挑戦する車を作ると言う。
世界記録になる車、高校生がつくれる車とは何だろうか。
「世界一車高の低い車」に挑戦することになったようだ。
動くだけではダメで
公道が走れるようナンバープレートが取れる車を目指すという。
一人乗り、車体を軽く強度を持つ強化プラスチック製だ。

ボディデザインの図面を発泡スチロールに写し削っていく。
そして強化プラスチックを塗っていく。
未来のエコカーとして電気自動車になった。

界記録
電気自動車 "M
18
Mirai
未来

「遅いからもう帰れよ」
差し入れの弁当を食べている６人のチームに声をかけるが
毎晩10時頃、家族も迎えに来て待っている。

生徒の熱中ぶりを見て指導教師も本気になった。
どうやって従来の世界で１番低い車高より低い車にするか。
アイデアは続々と出る。
丸いハンドルの上・下をカットして低くする。
タイヤの太さはどうする。

夏休み返上で秋の初めギネスの申請にこぎつけた。
手数料を払えば代行する業者が居るらしいが
すべて校長の英語力を生かして自力でやった。

そして11月披露発表会にこぎつけた。
平成23年（２０１１）６月３日ギネス世界記録認定書到着。
街を試走するギネスカーがテレビに流される。
県庁に表敬訪問し知事さんが乗って走るニュースが出る。
工業高校ものづくり発表でもひっぱりだこである。
３年生になっていた６人の彼らは車好きを生かす進路へ巣立っていった。

世界一が達成された要因をあげてみる。
ＦＲＰ強化プラスチック製型技術がヘラクレスオオカブトを作ってから既に備わっていた。
電気自動車の配線技術に明るい指導者が居た。
ものづくり好き、車大好き人間が６人たまたまそろった。
ギネスの交渉から自ら動き始め、皆んなを巻き込んでいった校長のリーダーシップなどである。

41 宝石をまとった仏像

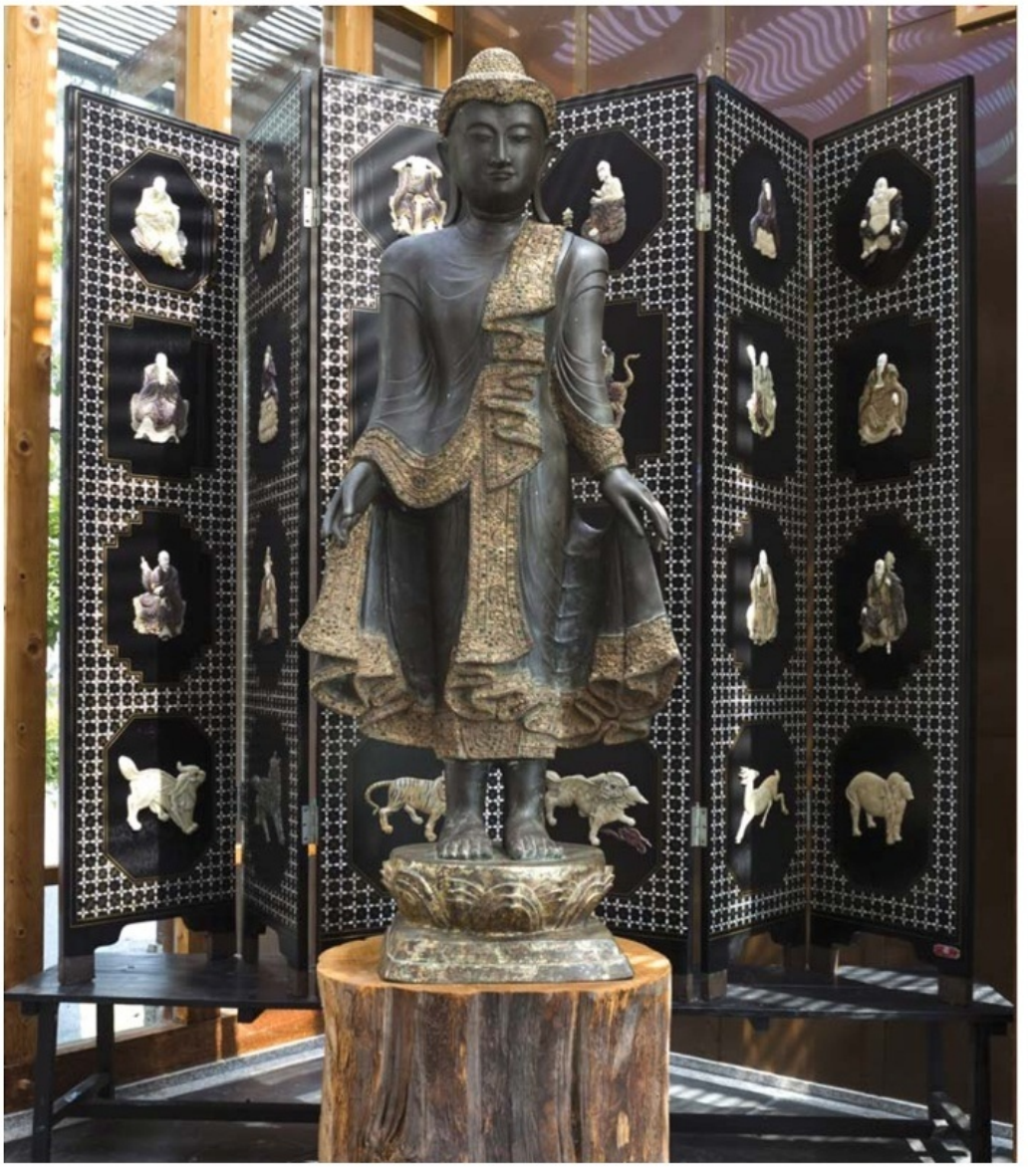
タイ・ビルマ国境地帯で
16世紀ごろのくずれたパゴダ(仏塔)からの出土品。
全身に宝石をちりばめた衣をまとった釈迦菩薩像である。

両手を下にさげ右手の親指と人差し指の間に何かをつまんでいる。
衣にはホワイトサファイヤとルビーが鋳込まれている。

日本では今までみたことはない。後日、タイ博物館で聞くと
「木の種をつまんでいる。16世紀の仏像には例がある」

入魂はせず美術品として80周年記念館に展示している。
未だに紛争が続く東南アジアから我が国へ渡ってきた哀しい、愛しい仏像だ。

見るたび表情が微笑んでいたり、怒っているように変わる。
おだやかな気持ちで仰ぎ見たいものだ。



42 内観道場

「君が校長だったら、このような事を起こした者をどうする」
無免許で連れてこられた生徒は神妙に言う。
「もう二度としないよう、一週間謹慎させて反省させます」
これが上から目線で叱らず、一緒に考えさす内観的生徒指導だ。
「残念だけど職員会議で退学処分が決まった。
就職するなら手伝うよ」
「もう、二度としません。学校へ置いて下さい」
「じゃあ校内の内観道場で反省するか。
一週間頑張れたらもう一度、会議にかけるよ」
導入前、教員が奈良の吉本道場で体験した。
途中で逃げて帰って、登校拒否をした若手が出たぐらい、けっこうきつい。

ルールはこうだ。
部屋の角の半畳を屏風で囲う。
その中で自由な姿勢で座る。
朝6時から夕方6時までトイレ・入浴以外はそこから出ない。
食事はそこの中で妻の手造りの松花堂弁当。
一時間ごと、指導者が屏風を開けて問答する。
「小学生のころ、お母さんにしてあげた事を思い出しなさい」

「別に。とくにありません」
が続く。
3日目位の朝になると顔つきが、
がらり変わってくる。
「毎朝こんな冷たい水を使って
弁当を作ってくれていたんだ。
それを自分はマズイと文句を
言ってばかり」
一週間の終わりには、
自分がしてきたことを後悔し、
感謝の念で涙を流す。
これで無事卒業した生徒は何人
も居た。
昭和40年代のなつかしい風景で
あった。
校内放送で授業前5分間の分散
内観をしていた。
「昨日の一日で人に喜ばれた事
を想い出して下さい」
その内観道場も役をすませ、90周年同窓会館に建て替えられることになった。

43 国王の印璽（いんじ）

90周年同窓会館の2階に新しく立礼の茶室が完成した。
そこで、テーブルに使っている青銅器がある。

「古いものらしいが、何か良く判らん。
引き取り手がみつからない」
と平成16年頃、知人が置いていったものだ。
最近になってＮＨＫ「地球に乾杯」という番組を見た。
中国四川省に住んでいた海の民「ボウジン」を紹介していた。
揚子江の上流で２００ｍの断崖の上に「天空の柩（ひつぎ）」を
遺して消えた民族だという。
この青銅器が銅鼓（どうこ）として紹介された。

「銅鼓３つ持てば王を名乗ることができた」
と伝わっているそうだ。
北ベトナム北部のドンソン遺跡からこの銅鼓が数多く出土していて、
紀元前１０００年ごろからの文化の伝播を示す代表的な遺物とされている。
棒につるしてかつぎ、戦いのドラムとして使っていたらしいこの台には、
人物・動物・幾何学模様の装飾がついている。
ものいわぬ不明の遺物が今、やっと語りはじめた。

兵馬俑と幻の敦煌仏

始皇帝の墓近くから、新たな兵馬俑が発見されたとニュースが伝っていた。
丁度６回目の教職員研修旅行で北京に出発する前であった。
北京市に瑠璃廠という骨董街がある。
そこの大きな店内に飾られていたのが立膝姿の新たに発見された兵馬俑だった。
「展覧会から引き取ってきたばかりだ」
という。
以前に訪れた敦煌で、バラバラで出土した躰のパーツを復元して
兵馬俑を組立てる作業を見たことがあった。
その中で一体分ぐらい外部へ流出する事はありうる話ではないか。
真贋は確かめようがない。
話しをまとめ船便を依頼し
６カ月後には破損せず着いた。
60周年記念館ロビーの番人として置いていた。
今は80周年記念館に飾られている。

２度目の北京の旅は、
修学旅行の下見、視察を兼ねていた。
泊まったホテルでの展覧会場で足がとまった。

細密な模写画だった。
作者はシルクロードのオアシス都市「敦煌」の千仏洞（せんぶつどう）で
一年間閉じこもって写したそうだ。
この洞は風化がすすんでいて現在は封鎖されていて見ることが出来ない。
だから今ではこの壁画は幻の千手千眼仏だという。
そのうえ、中国の記念切手の原画だという。
通訳の助けで交渉し
「売るつもりはない」
とためらう作者に、学校で永く展示するからと
譲ってもらったものだ。

45

匠（たくみ）の家

「とうとう建築科が無くなるんだ」
「記憶に残る物を造ろう」
桃アド実習場に、
木造で休憩所を建てることに決まった。

平成15年（２００５）の夏休みに工事は始まった。
小泉担任の熱意に呼応した20名の有志が、
ＯＢの棟梁の指導をうけ汗を流した。
落成したのは卒業式の前だった。

戦後の復興にと昭和21年に２代目校長が
建築科をスタートした。
山高を支える今一つの支柱となり、60年間で２９４９名が巣だっていった。

建築の現場監督や設計事務所、大工左官として、工務店を自営したりした。
しかし、「住宅が工場で生産される時代」が来て、幕が降ろされた。

「あずまや匠」では、白土寮の女生徒がときおり開く
バーベキュー・パーティの歓声がひびいている。

46 ビリヤードの名人

「面白いことを教えている学校」として
全国放送でバラエティ番組に取りあげられた。
平成18年からマイスター講座に加わったビリヤードである。
「オリンピック競技に入っている」
「優勝者はアジア人が多い」
というと驚く人が多い。

東南アジアの屋台村の横には、
古ぼけたビリヤード台があり、人々が遊んでいる。
植民地時代の遺産のようだ。

日本ではあまり普及してない。
むしろギャンブルとしてダーティーなイメージが強いようだ。
が、集中力を養い思考力をみがく効果は高いといわれている。

ヨーロッパ貴族の邸には必ず備えられており
世界に通用する尊敬されるマナーを身につけられる。

5つの台と観客席をそなえた小さなビリヤード実習場だ。

落成式に招いた、ビリヤード名人の演技はこうだ。
「真中の６球に打ちこむと、周囲の６つのポケットにすべて同時に入る」
また、
「２つの球を積んで（まず出来ない）打つ。
下の球だけがポケットに入り、上の球は動かずその位置に残っている」
奥は深い。
高校生に普及を願う日本ビリヤード連盟が後援、派遣してくれた。

47 山椒魚のキャンプ場

第一印象は岡山の軽井沢だと思った。
昭和40年冬、スキーをかついで初めて行った蒜山。
視界いっぱいの放牧地の大草原は軽井沢より解放感があった。
テントでもいい。野外で生徒たちと合宿研修をしたいと思った。
学母のカメヨ夫人の出生地という縁で、
1町余りの手つかずの山林を村より払い下げを受けた。

昭和45年、新入生約３００人のキャンプは始まった。
先発隊の仕事はトイレ作りからだった。
飲み水は塩釜冷泉と同じく大山の湧水が出ていたが、
衛生上、日本原の自衛隊に頼み、給水車を出してもらった。

敷地を流れている小川に大きな山椒魚が見つかったことがあった。
「美味しいよ」
という声に対し天然記念物だからと安全な場所に移した。
山椒の匂いがするのが名前の由来だとか。

40年たった今も、1年生のテント野外体験は続いている。
用地は、拡張を続け２万㎡を超えた。

井戸をボーリングし、
トイレも簡易水洗に
なった。

大雨時の避難場所にも
使える
集会場も整った。

「汗を流す風呂をつく
ってやって下さい」
との保護者の声は聞き
流すことにしている。

48

夢と流れたＰＬ戦

昭和60年（１９８５）の６月30日、
近県招待野球が予定されていた。
60周年記念球場が出来、
意気上がった野球部は
春の県大会と８校選抜で優勝した。

そのほうびとして招待されるＰＬ校と対戦することになった。
ＰＬは桑田投手、ホームラン・バッターの清原らで
夏の甲子園の優勝候補にあがっていた。
が、本校も熊本投手・和気サードが評判で
どんな勝負になるか、世評は盛りあがっていた。

ところが前夜は豪雨となり、県営球場のコンディションが悪く、
ＰＬ戦は中止となった。
本校の山陽球場も大きく谷へくずれた。

山陽自動車道が丁度工事中だった。
鴨方インター近くの阿坂トンネルから大量の砕石が出た。
くずれた斜面は、業者が砕石を利用し、無料で完全に補修してくれた。

その後、野球部は明石位まで近づいても甲子園へは行けてない。
しかし当時の父母後援会が建ててくれた選手名入りの記念碑が後輩たちに
「夢よもう一度」
とエールを送っているようだ。

生石窯（おんじ）

学校からすこし離れた私有地に陶芸教室がある。
生石高等女学校ゆかりの名をつけた生石窯、
平成18年（２００６）に建てられた。
マイスター講座で好評の指導者による「陶芸」や
地域で生まれた同好会に使用されている。

マイスター・スクールは平成12年（２０００）から始まった。
週２時間の総合学習として
「学校の中にもう一つ学校を創る」
ためであった。
「１年から３年までの20数人の混在クラス」
「どの学科からでも参加できる」
「点数評価はしない」
このきまりで約40講座が開かれている。

生石窯では、ろくろ・手ひねりの作品が
電気・ガス窯で焼かれる。
完成品が早く見られると好評だ。
作品は文化祭でも展示されるため、コーナーへ父母の来場者が増えてきた。

「ボクがつくった湯呑です。使って下さい」
と、卒業生が式の後で恩師にくばって回っているようだ。

50 チンギス汗の世界

「このゲル(草原の移動住宅)、モンゴルの市場で3万円で買ったんだ」
「中はけっこう広いな、6人家族が暮らせるそうだ」
「大人2人で1時間半で建つらしい」
「季節ごとに羊を追って住みかえるんだ」
「だけど、自動車科の修学旅行がどうしてモンゴルなんだ」
桃アドのモンゴル資料館前の会話。
360度の緑の地平線、ゲルに泊って見上げる満天の星座、
何千年前と同じくらしをしているような遊牧民にふれる旅。
今から800年前、チンギス汗が
「どの民族でも平等に扱う」
「宗教は何でも良い」
「国境をなくす」
の方針でモンゴル世界帝国は生まれた。
この理想は今の世界でも実現していない。
アジアからヨーロッパまでの大帝国はわずか100年で消えていった。
「ゲルのラクダの隣に、トヨタの中古ランクルがあったよ」
「ウランバートル(の首都)のラッシュはすごかった」
「市場で車が組み立てられる位の部品を売っていた」
帰国してからのレポートである。

異国文化を体験する旅で学べる事は多い。

桃太郎アドベンチャー

「自由にこの丸太の上に並んで下さい」
そして
「右端から誕生日の順番に並びかえて下さい。
しかし丸太から降りてはダメです」
入学したばかりの1年生のオリエンテーションである。

まだ言葉を交わした事のない同級生がお互いの
誕生日を名乗る。
手を貸して位置を変えたり、
かがんだ背中を乗りこえたり大騒ぎである。

黙って見ていた教師から次の指示がとぶ。
「じゃ、今度は左端から誕生順に並びなおして下さい」
「ウワーッ、また?!」
と嘆声があがる。

これは桃太郎アドベンチャーの10以上あるゲームの
一例である。
攻略法を工夫するうちにリーダー役として仕切る生徒が

生まれる。
お互いに声をかけ、
手を貸したりするうちに親しみが出てくるようだ。
1mの高さの台から、
うしろ向きに落下するゲームは勇気がいる。
下でたてに2列で並び、
手でささえてくれるはずのクラス仲間を信じる。

アメリカの少年更生施設で
仲間づくりにと始まったそうだ。
「友達ができない」
嘆く生徒が増えた対策として試行した。
平成13年に用地・器具が整備され保護者評議員研修や
中学生の体験学習、企業の新人研修にも利用されている。

「共存共栄」
の校訓は
「お互いの違いを認め
　持ち味を生かし協力して生きていく」
その実践の練習場でもある。

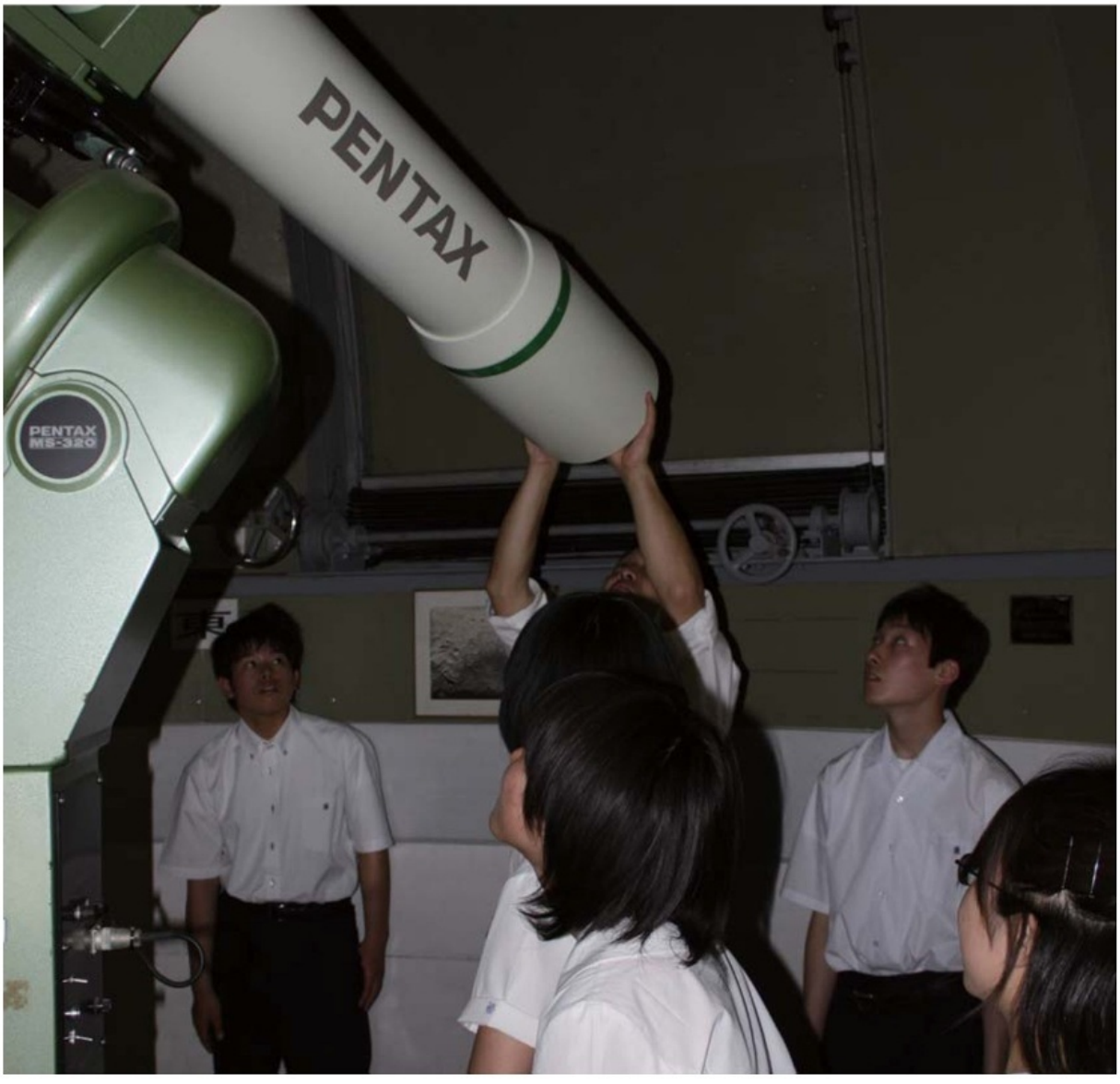
52 遥照さんよう天文台

厚生年金施設だった遥照山ホテルが閉鎖されることになった。
平成19年（２００７）の事。
「学校で活用しないか」
と声がかかったが、とても大型施設で手が回らない。

但し、付設の天文台だけは欲しいとの声があがった。
そこで、買収した企業のオーナーと地元行政トップと三者会談を持った。
「天文台はそのまま高校に無償でゆずる。
　ホテル客が希望する時は使用を認める」
との約束で建物登記をすませた。

それから天体ショーが続いた。
ペルセウス流星群・金環日食など、
地元のチビッ子天文ファンや保護者が楽しむイベントが出来た。

ものづくり大会で機械科がインターネット天文台を製作、
パソコンで学校に居て観測することも夢ではない。
天文同好会は寝袋を持ち、
弁当持参で「星の街、鴨方」の夜を４代目校長と共に楽しんでいる。


PENTAX
PENTAX
MS-320

53 亀岡丸Ⅱ号

本校では30年前から自家用バスを使っていた。
63人・40人・28人乗りと多い時は5台あった。
金光にある建設機械・土木測量実習場や部活動の遠征に
教員の運転で走っていた。
幸いにも物損はともかく、人身事故は起こっていない。

諸見里しのぶさんが在学中、
ゴルフ場への部員送迎に困っていると聞き、
中古のワゴン車を寄贈してくれた人がいた。

１９６５年に建築科を卒業し、
大阪で中堅建築会社の社長をしている亀岡浩三氏である。
「自分は山陽高校のおかげで今がある」
とその後も資格取得実習室（１１０㎡）をつくってくれた。

「亀岡丸って船の名前みたい」
と笑いながら今日も10人乗りの新車、
亀岡丸Ⅱ号に生徒たちは乗り込んでいる。

岡山自動車大学校
38-81

54 犬島物語

「校長、家を買わんか」
いつものぶっきらぼうな云い方である。
が、学校の事を何かと心配してくれる人であった。
保護者会の蒜山研修のバスの中であった。
「どこにあるの」
「どんな家」
「どうして売りに出たの」
と、やりとりしてやっと判ってきた。
犬島という岡山市内のただ一つの離れ島。
そこの空き家になった古民家が買い手を探しているという。
土建業のN氏はその世話を頼まれたらしい。
当時、岡山に住んでいながら犬島という島は知らなかった。

調べてみて判ったことがあった。
航海にたくみな島の人が桃太郎の供をして鬼ヶ島遠征の手引きをした。
ほうびに与えられたのが犬島だと伝わっていた。
又、むかし、菅原道真が九州へ流された時、
嵐の海で吠える愛犬の声にみちびかれ生命が助かった。
その犬が山の上に祀(まつ)られている犬石様という。

枕草子には、天皇の可愛がっていた猫をいじめた翁丸（おきなまる）という犬が犬島へ遠島される話もある。

「ともかく、一度行ってみよう」

となった。

昭和59年（1984）、歯科衛生士の学校を開設した頃で「海の家」があるのも悪くないかと思った。

ミステリー・アイランド

西大寺から宝伝という小さな漁港に行くと
海上３ｋｍくらいのところに小さな島が見える。
郵便船が定期的に人も運んでいて、10分もかからない。

島の船着場近くには民家が密集していたが人影は見えない。
大正時代、銅の製錬所があった頃は
２千人から５千人を超える島民でにぎわっていたそうだ。
世界不況のあおりで工場がつぶれ、
人々は去り、住民も便利な西大寺へ移住していった。
住民は、島にあった化学工場で働く人、
ノリの養殖をする人など２００人くらいだという。

周囲４ｋｍの小さな島だった。
青く澄んだ海にぐるりと囲まれ、
ジャングルのように繁った森に製錬所の廃墟がおおわれ、
その中から高い煙突が３本そびえていた。

犬島御影石を切り出した跡が深い池になっている。
その静寂なたたずまい、不思議な雰囲気に魅了された。

港の反対側、なだらかな峠を下った小中学校の隣にその小さな民家はあった。破格な値段だったので購入し、「海の家」を新築することになった。

ホワイト・ハウス

島の人々は学校施設がくると喜んでくれた。
が、思わぬ難題があった。
何軒かの民宿があるのに、水洗トイレが出来ない。
それからがＮ氏の本領発揮であった。
遠くは小豆島、牛窓を含め、周辺の漁協から
浄化水の放流同意書の印をもらってきてくれた。
建築申請書を見て、西大寺市の担当官が
「信じられない」
と、言った。

クラス50人位が寝泊まりできる施設は
それから20年間「海の家」として活用された。
「ホワイト・ハウスにきんさったのか」
と、白い屋根・外壁から海の家はそんな愛称でよばれていた。
その間に、小学校もなくなった。住民も50人を切った。
学制が２年制から３年制に変わる平成22年（２０１０）に、
９９４名の歯科衛生士を世に送り出した専門学校は幕を降ろすことになった。
その後は、高校の釣りクラブなどが夏休みに使うぐらいで利用者は減った。
「海の家」もその役割を終えたかなと思った。

そして、その年、福武財団による第1回「瀬戸内国際芸術祭」が開かれ、犬島会場の美術館やアート作品に多くの人が訪れるようになった。

「港の周辺はにぎわうが、こっちには来てくれない」

と、島の古老の淋しそうな顔。

お犬様通る

S字結腸ガンの手術で入院していた2年前、
川埜夫妻が見舞いに来てくれた。

「もう一度、海の家をよみがえらせたい。
人々が集まってきて、永く夢や希望を語れる
楽しいアートをつくってほしい」
と、頼んだ。

人生のカウント・ダウンが
聞こえだした時で、
存在の証を求めていたのかもしれない。

お世話になった島の人々への感謝と、
「海の家」が生命をつないでいくことが
出来たらと思った。

「先生怒らないで。
犬小屋にしたよ」
と一年後にデッサンを持ってきた。

www.inujimahouseproject.com

犬島ハウスプロジェクト
Inujima Doghouse Project

笑ってしまった。

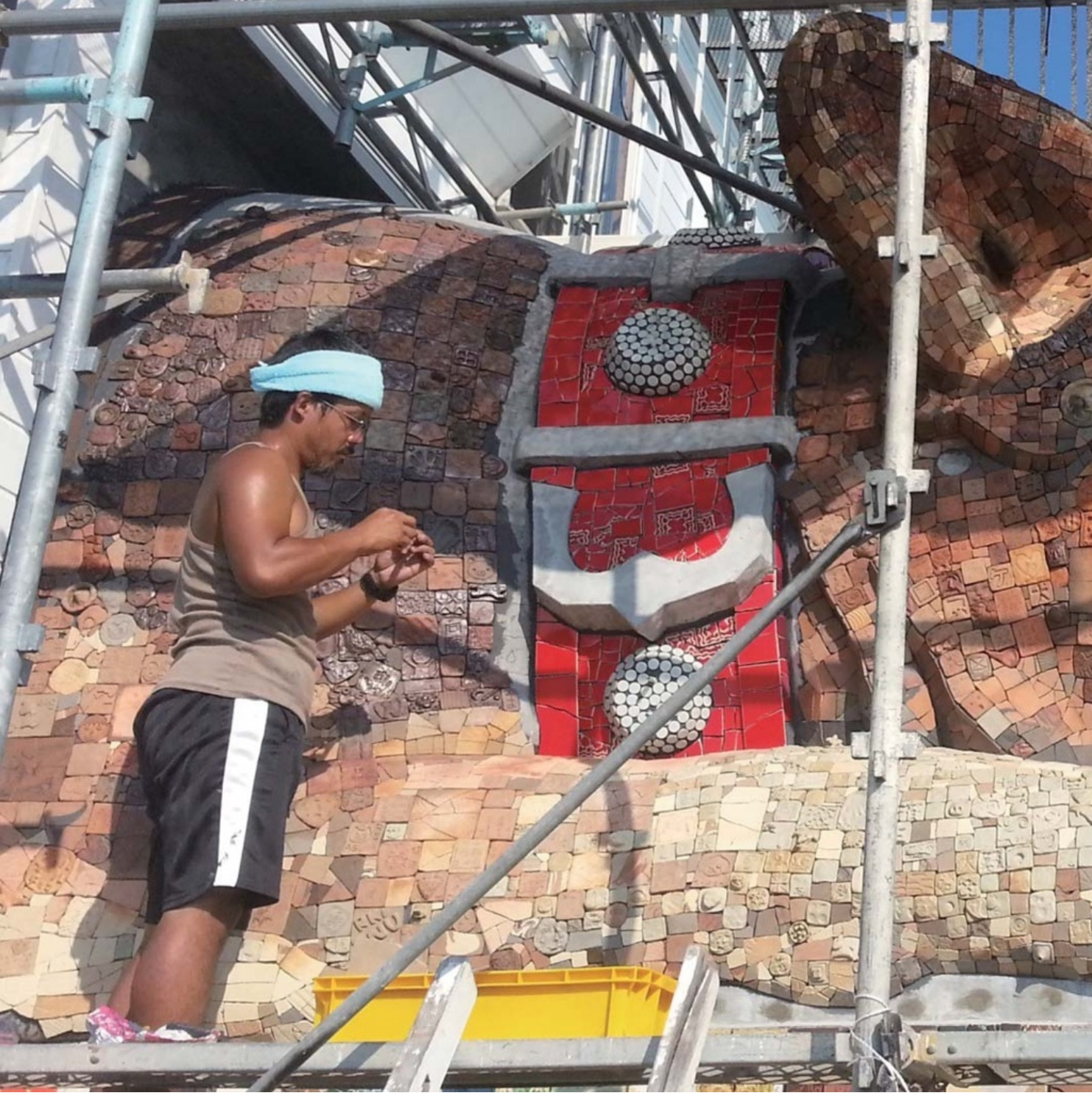
それは海の家から
半身を出した
巨大な犬の
アート作品であった。

「犬島の犬石様に
呼びつけられた
島の番犬だな、
可愛いいな。
隣の、犬島自然の
家にくる小学生は
喜ぶだろうな」

そして
「まかせたよ」
と言った。

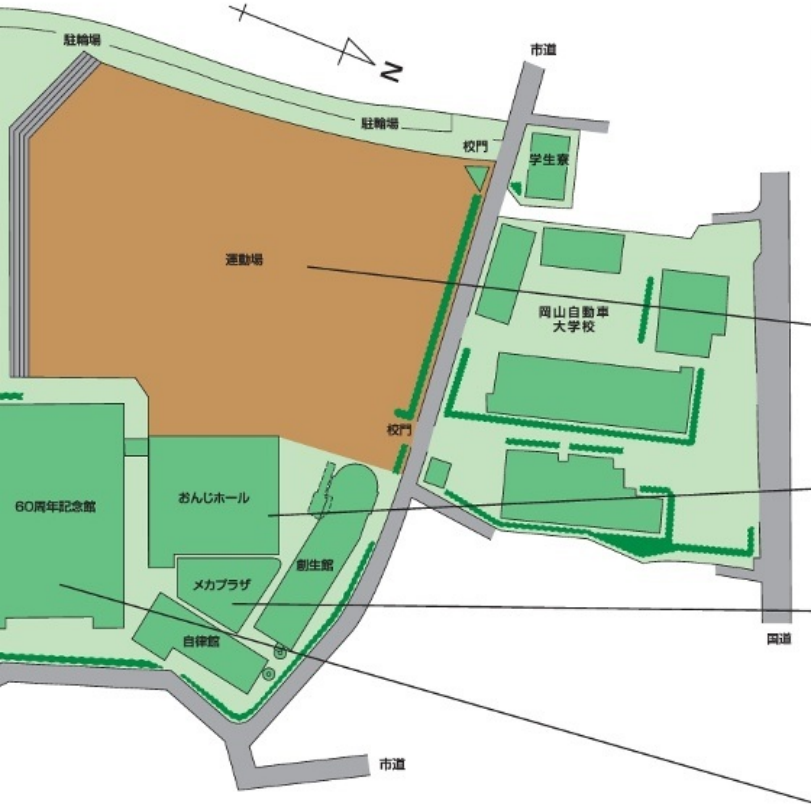
御神体の犬石様と同じ大きさの5メートルの犬はスタイロフォームで造型され、
全身に特殊コンクリートを吹きつける。
その上に皆んなにつくってもらうタイルをはる構想だという。
そして犬は5月にはアトリエのある笠岡港から
瀬戸内海の島々をマーキングしながら渡って
いった。NHKをはじめ各社のヘリコプターから、
海を渡る犬の映像が全国に流れた。
この「犬島ハウスプロジェクト」に全国から賛同者が
タイルをつくりたいと殺到した。
そしてその人たちのそれぞれの願いや夢を彫りこんだ
タイル数千枚を身にまとって犬(まだ名前はない)が
完成するのは10月である。
どんな毛並みになるかワクワクしている。

いつか、10年後か100年後、瀬戸内海を世界のクルーズ船が行きかい、
東洋のガウディがつくった犬を見に、島へ立ち寄る日が来ると信じている。



おかやま山陽モノ話マップ

本館	理事長室　校長室　事務室　普通教室　音楽室
北館	実験・実習室　普通教室　製図室
西館	教員室　実習室　普通教室　図書館　総合学習室
別館	進路指導室　保健室　レスリング道場
60周年記念館	体育館アリーナ　生徒ホール　食堂　空手道場
	体育教官室　家庭科室　自動車科実習場
70周年記念館	柔道場　溶接実習場
80周年記念館	茶室　会議室　展示室(座右の銘　器に学ぶ)
90周年記念同窓会館	同窓会館　過去･現在･未来の展示
調理･製菓総合実習棟	調理実習室　ホテル実習室　礼法室
	製菓実習室　実習講義室
おんじホール	音楽ホール　機械総合実習場
創生館	機械科実習場 ミュージックセンター アンサンブルホール
自律館	男子寮　スポーツトレーニング室
白土寮	
ビリヤード実習場	
生石寮	



●ZONE:6 運動場

26 鉄道レールのバック・ネット

●ZONE:7 おんじホール

29 生石ホールの響き

●ZONE:8 メカ･プラザ

30 メカ・プラザ

●ZONE:5 60周年記念館

14「何もなくて豊かな島」のパッチ・ワーク
21 鳥を呼ぶ
22 叱られ坊主
23 ソーラーカー山陽桃太郎号
25「飛翔」
27 太陽の詩

7　上ばき中止 / 10「エア・コン」/ 15 ホワイト・ボード は本館・北館・西館
28 ソロバン はイメージphoto　42 内観道場は現在ない
47 山椒魚のキャンプ場 / 48 夢と流れたＰＬ戦 / 52 遥照さんよう天文台 /
54 犬島物語 / 55 ミステリーアイランド / 56 ホワイト・ハウス / 57 お犬様通る
などは学外の施設

●ZONE:11 90周年記念館

33 五重塔
38 ヘルベンダー
39 ヘラクレスオオカブト
40 世界一への挑戦

●ZONE:10 80周年記念館

31 方谷屏風
32 日富實苑の主
34 座右の銘
35「億万年の波動」とサル
36「器に学ぶ 器を学ぶ」
37「為生石高女」
41 宝石をまとった仏像
43 国王の印璽
44 兵馬俑と幻の敦煌仏

●ZONE:1 本館前駐車場

1 噴火石の校訓碑
2 秀吉のソテツ
3 原田林市先生頌徳碑
4 校歌碑「白土ヶ丘」
9 橋上駅の夢（玄関ホール）
19 彫像壁画「感覚サレルベキモノ」
24 教頭の門

●ZONE:2 学園長理事長室

5 「新羅焼の馬」と「白磁の大虎」

●ZONE:3 中庭・なごむテラス

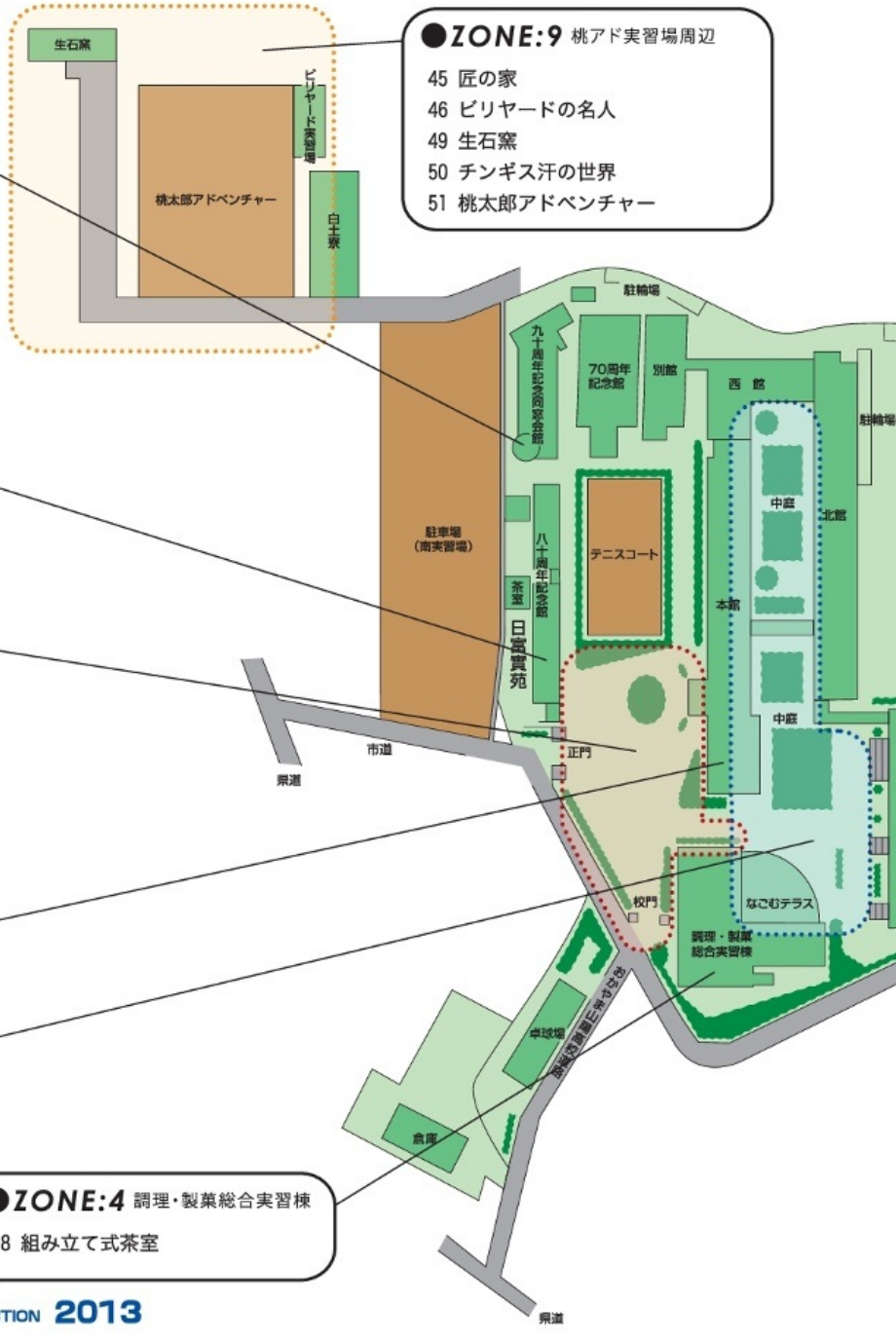
6 ガーデン・スクール
11 空手像のナゾ
12 六百年のはじらい
13 北木の陰陽石
16 雄峯碑
17 土木の置き土産
20 結婚式をどうぞ

●ZONE:4 調理・製菓総合実習棟

18 組み立て式茶室

●ZONE:9 桃アド実習場周辺

45 匠の家
46 ビリヤードの名人
49 生石窯
50 チンギス汗の世界
51 桃太郎アドベンチャー



あとがき

今から48年前、
10年近い東京生活を引き払い、
岡山へ英語教師としてやって来た。

「校長代理をやってくれ」
とも言われた。
教育現場にはない職名だと後で知ったが、
私学の毎日の雑用に追われてきた。

この間、90周年を迎えるまでに
校内には色々なモノが溢れてきた。
その一つ一つに多くの人の思いがこもっている。

忘れかけられているモノに
もう一度スポットを当てたいと
感謝の気持ちで小誌にまとめた。

平成25年10月

学園長　原田　三代治

原田 三代治 [*Harada Miyoji*]

昭和11年(1936)徳島生まれ。早稲田大学英文科卒

昭和40年(1965)岡山山陽高等学校 教諭

昭和54年(1979～2007)おかやま山陽高等学校 校長

昭和59年(1984～2010)山陽歯科衛生士専門学校 校長

昭和62年(1987～2009)岡山自動車工業専門学校 校長

昭和62年(1987～現在)第一原田学園理事長

平成 6 年(1994～2004)岡山県私学協会 会長

平成24年(2012)旭日小授章受賞

現在に至る。

おかやま山陽モノ話 2013

OKAYAMA SANYO HIGH SCHOOL COLLECTION

平成25年11月20日 発行

著　　者　原田 三代治

写　　真　assimo photo office（全般）

※犬島ハウスプロジェクト・写真：田中 祐次

※学外施設など一部学校より提供

デザイン　design studio PROJECT-G

印　　刷　㈲有田印刷所